

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100048		
法人名	株式会社 サンメディカル		
事業所名	グループホームサンパーク笑う門 ‘だいち’		
所在地	〒020-0863 岩手県盛岡市門1丁目15番25号		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=0390100048-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=0390100048-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年12月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの関わりを大切に感謝の気持ち‘ありがとう、うれしい’を言葉で伝え、ゆったりと笑って過ごせるように支援している。・サンメディカルは福祉用具のレンタル、販売をしているので利用者様の生活状況に合わせ会社と相談し、福祉用具、衛生用品の試供品を提供している。・健康管理として口腔ケア、排便コントロールに力を入れている。また、食事を美味しく食べられるような献立にし、目でも楽しめる盛り付けを工夫したりバランス良く食材を使い、排便コントロール支援、水分摂取量を保つために器の工夫、好みの水分を準備し支援している。・町内行事に参加したり、地域の方を交え避難訓練を行っている。・自然に恵まれた閑静な住宅地に立地しており、季節の移り変わりを目で肌で感じながら散歩を楽しんでいる。ホームの畑では野菜を育て収穫を楽しみ、一緒に調理をして食べている。利用者様と職員で季節のものを作成しホーム内に装飾している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・会社の理念に基づき、グループホームの理念を定め、また、職員一人ひとりが「日常の五心」(介護の心得)をもって、日々の業務に理念が反映されているか確認しながら、質の高いサービスの提供に努力されている。  
・運営推進会議では、委員からの要望で、前回の議事録も併せて提出し、課題の改善報告等、活発に会議が運営されている。  
・グループホーム2棟(そら・だいち)は別棟になっており、利用者にとってそれぞれが隣りの家になっている。また、共有ホールの季節のクリスマスの飾り付けも、各棟の個性が表れており職員の努力が感じられる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を市域、家族を意識した表現にしている。地域交流を意識して町内行事への参加、近隣で買物をおこなっている。	理念は、会社の理念、グループホームの理念、職員一人ひとりが日々の業務で心がける「日常の五心」を、事務室、共有ホールに掲示し、意識して利用者、家族、地域の方々と関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 平成26年11月15日	回覧板や会報を頂き、流しそうめん、資源回収等の行事に参加している。敬老会には地域の馴染みのボランティアさんと一緒にお祝いをし、花を頂いたりホームに居ながら祭りの音頭上げや子供みこしを楽しんでいる。	町内会に加入している。回覧板は利用者と一緒に持って行っている。町内の流しソーマン、子供会の廃品回収等の行事に参加している。食材等の購入は、町内の産直や商店を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーに利用者様と一緒に出掛けたり運営推進会議をホームで開き様子を見ていただき、認知症ケアの報告を行っている。入居の問い合わせや相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度会を開き町内会会長、民生委員、地域住民、家族代表、包括支援センター職員に活動報告をし助言を受けている。	会議では、委員の要望で前回の議事録も提出している。課題は検討経過を報告している。また、駐在所員から、徘徊時の対応として、靴に名前、電話番号、住所があると連絡できると意見があり、名前と電話番号を記入している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	盛岡市や包括支援センターへ運営推進会議録の提出をし、その都度、多様な面での連携を図れるよう取り組んでいる。	盛岡市担当窓口には直接出向いて、運営推進会議の議事録を提出したり、利用者転倒の報告をしたり、助言をいただく等、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当社、ホームの理念に沿って夜の戸締り以外施錠することなくご本人の動きを受け入れる支援を実施している。利用者様、職員の位置確認を徹底し、スピーチロックを意識した支援をホーム内学習会で確認共有している。	防犯上、夜間については施錠している。一人ひとりの位置確認を常に意識して行っている。ふらつき・転倒のあった利用者には、見守りを強化し、離床センサーを使用している。また、言葉による拘束について、注意して関わっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し認知症の理解に努め、ご本人を受け入れる事を基本としている。また、ボランティアや実習生の受け入れを行い外部からの助言や感想を頂き防止に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	受け入れることから始める基本姿勢や理念にそって支援し、振り返りを行っている。 研修会に参加し、職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、目的、入院した場合、看取り、入居料、面会等の説明。それぞれご家族様の不安、心配な点に時間をかけ、その都度説明している。また、ご家族さまとホームとの協力支援について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内玄関に意見投書箱を設置し、面会、サービス説明時にご家族様の要望を確認している。利用者様の変化やご家族様の思いを理解し、その状況にあった対応を心掛けている。	これまで意見箱に投書はない。家族には、面会時や介護計画説明時に、要望を聞いている。利用者の状況に応じ、看取りについての意向を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス及び連絡ノート、業務日誌を用いて職員間で意見交換を行っている。 また、当社代表に業務日誌や電話での報告を行っている。	定例の職員会議はない。日々のカンファレンスや連絡ノートを活用して、業務、勤務表等に関して意見交換をしている。業務日誌には、会社代表者への意見を自由に記入できる。また、会社代表者とは、携帯電話でも自由に話が出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の役割を持ち責任を持って行えるように、また、認知症ケアの不安を解決出来るように助言している。 勤務表の平等を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験年数、研修歴などを参考にして計画をたて、希望を聞きながら平等に研修を受けられるようにしている。認知症ケアの不安を解決出来るように助言をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ブロック定例会の研修に交代で参加したり、交換研修を通じて交流、ネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式から情報を得て、ご本人受け入れる事を一番に考慮し生活リズムの声がけを行い、強制することなく支援している。ご家族様に面会を増やして頂き、共に関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、契約、面会時など傾聴することから始めている。ご家族様の都合の良い時間に出向いて頂いたり、電話にて生活の様子をご報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報、見学時の様子でどのような支援が必要か見極めているが決めつけずに、見守りをし出来る事、出来ない事、不安に思っている事などを職員間で共有して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを優先にし、「一緒に」の声がけを行い、コミュニケーションをとり「ありがとう」と感謝の気持ちをお伝えし支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に、ご家族様と一緒に支えたいとご説明し、病院定期受診はご家族様をお願いしている。また、希望に沿った面会、外出、外泊をしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の自筆で年賀状書きの支援をしている。電話でご友人やご親戚と会話ができるよう支援している。自室に手紙や写真を飾り、馴染みを大切にしている。	利用者の高齢化に伴い、意欲の低下が見られ、段々と馴染みの場所や、人との交流が希薄になってきているが、季節の行事や法事等で外泊する方もいる。傾聴ボランティアが週2回訪れ、馴染みになりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事、興味のある事等に職員と一緒に関わりをもち、常に見守りをして変化に注意し、戸惑いのサインに声がけをして、寄り添い、良い関係作りを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した時には、不安がないよう職員がお見舞いに伺っている。ご家族様の問い合わせ等にも可能な限り支援し、ケアマネージャーとも情報を交換している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の現在を探り、思いをくみ取れるよう支援に支援にあたり、記録や申し送り、職員間の情報交換で共有している。	センター方式を導入し、共通シートを使って、本人の情報や気付きを共有している。言葉や表情、動きの変化を観察し、言葉通りの意味なのか真意を推し測ったり、ホールに出て来たことが排泄と食事の意味だったり、意向の把握に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー及び相談員からの情報と入居前にご家族様にセンター方式を記入して頂き情報を得ている。様子に変化が見られたときにはご家族様に確認し理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	‘いつもと違う’の気付きをする為に生活リズムシート、個別の健康管理シート、センター方式を活用して全体の把握に努めて日々、モニタリングしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の経過をモニタリングし柔軟に対応している。計画、評価については、ご家族様、主治医、地域包括、職員の意見を参考に3か月ごとに計画の見直しをしている。	日々のカンファレンス、連絡ノート、職員間の情報交換、個別の経過をモニタリングし介護計画を作成している。また、3ヶ月毎に見直しをし、本人・家族に説明し、思いや意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活リズムシートのモニタリング情報を職員間でアセスメントして共有し、3ヶ月毎に計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況に合わせ、当社の福祉用具の提供、介護保険更新手続き、病院受診、往診対応を行っている。また、当社デイサービスと交流し行事を楽しんでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ公園の東屋で世代間交流を行ったり、日用品の買物に出かけている。また、花見、紅葉などのドライブを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、ご本人様、ご家族様が希望する主治医に受診をお願いしている。その際、ホームでの記録の情報提供を行っている。ご家族様への報告を電話にて行っている。	かかりつけ医の受診は家族が行っているが、緊急時や都合のつかない場合は支援している。医師には、ホームでの生活等を報告し、診察の結果を教えている。家族の希望で、訪問リハビリを受けている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、1週間に一度健康相談をしている。また、訪問日以外にも電話で相談をし助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時には、必ず付き添い病院関係者に緊急連絡表を用いて情報提供をし、入院した場合には頻回に面会に伺い安心して頂けるように支援している。相談員との連携にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療連携体制及び、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご本人様には、日々の生活の中で看取りの確認をし、サービス計画書に記載しご家族様と共有している。訪問看護師と連携し主治医に報告している。	契約時に、家族に「医療連携体制及び看取りに関する指針」を説明している。本人には、日々の会話の中で看取りの確認をしている。重度化した場合、かかりつけ医や訪問看護の指導を受けながら対応している。また、ホームで出来ること、出来ないことを説明し了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画で通報訓練(火災、緊急)AEDの使い方、誤嚥対応、ノロウィルス対応等、確認している。」電話の側に緊急連絡表、職員連絡網を置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立てて毎月訓練を行っている。年2回デイサービスと合同訓練を行った。秋には消防署の派遣をお願いして指導をうけた。セコム 화재センサーが作動すると地域住民に連絡が行くことになっている。	年2回、隣接するデイサービスと合同の訓練を行っており、1回は消防署の指示で、日中の訓練を実施している。また、玄関から避難出来ない場合を想定し、居室から避難する訓練を行った。	夜間の訓練を実施し、暗い中での誘導、車椅子の介助、地域住民の協力等、経験されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄ケア、入浴介助時には徹底してご本人様の羞恥心に配慮し、言葉使いに気を付けている。戸口に暖簾をかけて自室の空間を大切にしている。	「日常の五心」を念頭に、本人の意向を確認して、支援を心がけている。名前・写真等は家族の承認を得て掲示している。本人の言葉を否定や注意することなく、さりげない言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話、動作などでの不安、精神状態をくみ取り、傾聴し生活全般、排泄、睡眠等から体調を確認し環境を整えて自ら発することが出来るよう、ゆったりとした空間づくりを心かけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年間行事、一日の生活リズムの予定はあるが、ご本人様の希望、お天気まかせの生活をしている。起床、食事時間が個々の時間になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用して個々の希望に沿った整髪にしている。季節に合った衣類をご自分で選び更衣が出来るよう生理整頓、買物の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、和え方、盛り付け、テーブル拭き等の出来る事、好んで行うことの見極めを行い、役割が持てるよう支援している。	献立は決まっているが、野菜の差し入れがあったり、利用者の食べたい物に変えることもある。利用者と一緒に食材の準備、調理、片付けを行っている。個々の利用者の体調や生活のリズムに配慮し、食べたい時間、食べるスピードに合わせた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下、咀嚼状態を観察し、食材の硬さや大きさに注意を払っている。食事量、水分量を確認し摂取量を維持出来るように食品代用、嗜好を考慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様の動きに合わせて、食後3回の口腔ケアを居室、ホールにと声掛けをしている。口腔内の観察をし磨き残し、乾燥、義歯の状態に気をつけている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を確認し週間を受け入れ、個別に見極めを行い、トイレに個々の尿とりパット等を配置し支援している。	排泄チェック表で、排泄習慣を把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。自分で交換する方は、トイレに名前を書いたパットを置いている。排便後は、ウォシュレットを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や軽運動、食分量、水分量に心かけ予防に取り組んでいる。個別の排泄パターンを把握し不穩、嘔吐腹痛等の観察をし訪問看護師、主治医に相談しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の理由に沿った声掛けの対応をすることにより、スムーズな入浴に繋がるようにしている。また、パラ風呂やゆず風呂を実施し利用者様より好評を得ることができた。	週2回入浴している。清拭は、就寝前と起床時に行っている。一番風呂、シャワーだけと、利用者の希望に合わせて、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の温度、湿度、寝具の調整、個々の安眠に繋がる明かりの調節を行っている。不安や寂しさのサインがある場合は、職員が添い寝をしたりすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし職員全体が確認している。個々の症状や変化を把握し訪問看護師、主治医に相談している。特に、血圧、便秘、眠剤、誤薬に注意を払い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様にセンター方式で記入して頂き、個々の得意な事、趣味、出来る事等の確認をし役割が持てるようにしている。また、個々に合ったレクリエーション、買物、散歩、裁縫、行事等で楽しみごとを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的なホームでの外出、散歩、ドライブ、病院受診の他、ご本人様とご家族様の要望で温泉外泊や自宅への外泊、法事外泊等も出かけられるよう支援している。	天気が良い時には、外に行きたいという言葉を抑え、ドライブしている。デイサービスの利用者と一緒に出かけることもある。本人の希望で、家族と外出したり、病院受診も家族との関わりの機会になっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームサンパーク笑門(だいちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてお小遣い管理はしているが、個々の力に応じて買物や病院受診時には、見守りや一部介助しながら支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親戚やご友人と絵手紙等のやり取りをされたり、自筆で年賀状を書いて頂き投函している。ホームの電話を利用し会話を楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の歌の歌詞にちぎり絵や折り紙作品を貼りつけ装飾を楽しんでいる。また、音楽を流しゆったりとした空間作りに取り組んでいる。	共有ホールには、季節のクリスマスの飾り付けがされている。各棟で、利用者と一緒に作成しており、それぞれの特徴ある作品となっている。加湿器、パネルヒーターエアコンで適切な環境が保たれている。食卓、ソファ、テレビが配置され、それぞれの場所でゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを楽しめる、会話を楽しめる、新聞、本をゆっくり読める、食事作りが見える位置などに気配りをし家具や椅子の移動をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物、思い出の写真、家具を持参して頂きベットや家具の配置はご本人様とご家族様と相談して決めている。好みのカレンダーや壁飾りをしている。	電動ベッド、クローゼット、洗面ユニットが備え付けられている。テレビ、掃除機、電話機、位牌を持ち込まれている方もいる。また、カレンダーや家族の写真が壁に飾られ、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動線上手すりをつけている。玄関には靴の履き替えがしやすいように椅子を置いている。トイレの案内を大きく貼っている。		